

パンチングで孔開け

奥谷金網、耐摩耗鋼向け

奥谷金網製作所(神戸市中央区、奥谷智彦社長)は、耐摩耗鋼「ハルドックス450」へのパンチング加工技術を開発した。新技術は同社の孔開け加工「スーパーパンチング技術」を高度化し、独自開発の金型やプレス油を使い、加工手順

などを見直すことで実現した。破碎・粉砕機メーカーや環境リサイクル事業者を中心に提案する。初年度1000万円、5年後には5000万円の売り上げを見込む。

今回の加工技術を使い、板厚4ミリのハルドックスに対して孔径15ミリのピッチ20ミリの開孔率51%のパンチングを実現した。ハルドックスのパンチングメタルで破碎・粉砕機のメッシュ部の耐久性向上ニーズに応える。

プラント向けの需要拡大も想定し、鋼板サイズ1000ミリ×2000ミリで板厚8ミ



ミリ、孔径10ミリ30ミリの加工が一般的で、これまでパンチング加工は難しいとされていた。奥谷社長は「業界で

耐摩耗鋼・ハルドックスへのパンチング加工は先駆けの技術。他社がやらないことを当社がやる意義は大きい」と自信をのぞかせる。

ハルドックスなど耐摩耗鋼への孔開け加工は切削やレーザー